

## ほほえみ 第73号



平成28年も、あと残すところ一か月をきりました。ほほえみ読者の皆様も、師走でお忙しく過ごされていることと存じます。冷え込みが強くなり、朝方、霜柱が出来ていることが多くなりました。場所によっては、一面にできているところもあり、つま先で蹴ってみると、軽い感じで棒状の氷が散らばるのが、大人でも面白いと思います。今年は、雪は多いのでしょうか。もうすぐ新年ですが、皆様、良いお年をお迎えください。

## 人物評の達人・矢内原忠雄

当院で、新渡戸稲造記念 がん哲学外来、メディカル・カフェを行っている関係で、新渡戸稲造の生涯、事績、書物などを調べる機会がありますが、新渡戸稲造の弟子である矢内原忠雄の書いたものから、新渡戸稲造の実像が現れてくる場合があります。矢内原の著作、『余の尊敬する人物』という本の中には、エレミア、日蓮、リンカーン、新渡戸博士の4人が取り上げられています。新渡戸博士の章では、

「内村鑑三と新渡戸稲造とは私の二人の恩師で、内村先生よりは神を、新渡戸先生よりは人を学びました。」

と冒頭にあります。そして矢内原が旧制一高に入学した時の、新渡戸校長の演説というのが、記録されているのですが、この記載が素晴らしく、旧制高校入学時点にして、矢内原が極めて行き届いた人物であったことを彷彿とさせます。その演説の中では、友達同士は礼をするように、先生にも礼をするように・・・などと書かれています。その演説を紹介した後で、

「・・・演説を今読み返して驚くことは、それが隙間だらけなことです。いくらでも敵の打ち込む隙がある。」

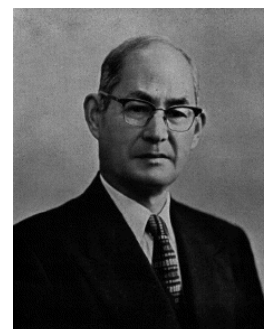
と、矢内原の感想が書かれています。教育者の頂点とも言える、旧制一高の校長の演説として、平易すぎ、一見、特段教養がなくても言えそうですし、さながら、母親が子供に言う程度にも見えるということでしょう。その後で、

「・・・しかし先生の教訓の趣旨は明瞭です。それは「みんなの人が偉いのだ、」という思想です。「我に取りて、すべての男子は英雄、すべての女子は清く、到る處神の宮」という語を、先生は度々引用しました。」

と述べています。矢内原は隙がある、欠点があるということは、マイナスと捉えておらず、別の本の中で(『読書と著書』)、彼の尊敬する人物の条件を書いています。

1. 真理を愛したこと。
2. 誠実であったこと。
3. 平民的であったこと。
4. 欠点ある人物であったこと。

なのですが、一見欠点がなさそうという人物に、むしろ偽善的なものを感じ取っていたようです。この辺りが、うわべで人物を評価しない、矢内原らしいところであると思います。新渡戸稲造の演説を書き留めた矢内原の、お弟子さんもまた、矢内原の講義を一語一句もらさず速記記録しており、そのお蔭で、『土曜学校講義』という、アウグスティヌス、ダンテの神曲、ミルトンの失樂園の素晴らしい講義が後世に残ることとなりました。



## 診療応援に関して

今年度、がん化学療法科のスタッフ減により、通院中の皆様にはご迷惑をお掛けしておりますが、12月以降の当面の診療応援に関してお知らせ致します。

- 第2, 4火曜日 東北大学腫瘍内科
- 第1, 3水曜日 大堀先生 (石巻赤十字病院)
- 第2, 4金曜日 秋田大学腫瘍内科

の先生方に来ていただいて外来を担当していただく予定となりました。その都度、担当医が変わることや、お待たせする時間が長くなる可能性もありますが、何卒、ご理解とご協力をいただければと存じます。

## ひまわりバザー

当院のボランティアの会である、「ひまわり」さんのバザーが、12月7日にありました。外来の状況などでは、見に行くこともままならないこともありますが、今年は、うまく昼休みに行くことが出来ました。バザーの品物の中から、コースターを買いました。丁度、クリスマス用に置いているキャンドルの下に敷くのぴったりです。おかげ犬さんの下に敷いているものと、セットで100円でした。

家内がバザー用に、パウンドケーキを作ってお渡ししていたので、ちょっと「まめぶ汁」を食べていってと、声を掛けていただいて、ごちそうになりました。ほんのり甘くて美味しかったです。



## MEMO

### 12月のがん化学療法科の予定

- 12月2日 柴田教授外来
- 12月13日 診療応援(伊藤先生)
- 12月16日 診療応援(福田先生)
- 12月20日 診療応援(西條先生)
- 12月21日 診療応援(大堀先生)
- 12月23日 天皇誕生日
- 12月24日 クリスマス・イブ
- 12月28日 御用納め

